



大宜見洋文 議員

子ども元気ルーム事業で 何が期待できるのか

答 切れ目なく支援することで自立に貢献する

問 生活困窮世帯の子どもに
対し、平成28年度の具体的な
支援事業はどうか。

副町長 内閣府の10割補助で、
子ども元気ルーム事業として
子どもの夜の居場所を中学校
区に1つずつ確保する。こども
も課に子ども元気支援補助員
を2人配置し、各関係機関と
の連携で施策を推進する。

問 子ども元気ルームは、不
登校や引きこもりの児童生徒
への対応もある。現在、教育
委員会が行っている事業とど
こが違うのか。

こども課長 対応する時間帯

を新たに夜間、土日、長期休
暇などにも対応する。今回の
元気ルーム事業の大きな特徴
である。事業の実施で子ども
たちへの切れ目のない対応が
できる。

問 元気ルーム事業の実施で
何が期待できるのか

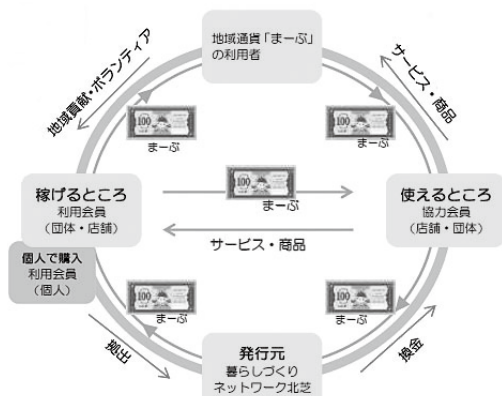
こども課長 子ども元気ルー
ムで対応するスタッフは、子
どもから見たら斜めの関係に
なる。この斜めの関係の大人
と信頼関係を築いたときに、
この子どもたちが本音を喋っ
てくれることがある。支援を
必要とする子どもたちの背景

は、さまざまなことが想定され、
対応もさまざまである。子ど
もがほっとした瞬間に出てく
る言葉を引き取り、懇切丁寧
に切れ目なく支援することで、
子どもの自立に大きく貢献す
ると期待している。

問 「まーぶ」は、大阪府箕面
市で流通している地域通貨で、
ボランティア活動の対価として
手に入れることができる。子
ども食堂でも利用できると思
うが、町として「まーぶ」の
意義をどのように捉えているか。

こども課長 子どもたちがお

手伝いや人のためになること
をとおして「まーぶ」を稼ぐ
行為は働くことの苦勞の体験、
人から感謝されることを体験
することで、自己肯定感を得
られて大変素晴らしい。



地域通貨まーぶ流通の仕組み

こんな質問もしました

- 観光発信施設基本構想・基本計画策定委員会について
- スターフルツPPRを
- 町内事業所の規模拡大への要望や企業誘致への検討は
- 小中学校の交換留学制度を
- 町内コミュニケーション整備を